

東北の被災地の放射能の 新聞出版)だ。

危険は今どうなっているの

両親を津波で失って出家

を決意する。彼の周りで交

任逃れの玉虫色の体質なの

か。学者によって

した青年が住職に迎えられる

論は、勉強熱心な玄侑なら

だ。ついに「どちらにも与

見方が正反対で、

たのが、福島県の僻地の

では、詳細で広範囲なも

しない」「放射能は幻」と

そのため遠方へ自

寺、竹林寺。その名の通り

ので、多様なデータと見解

道尾秀介の『ソロモンの

主避難する若い家

族と、故郷に残る

犬』の続編として書かれた

青春恋愛小説の体裁なが

老人との分断が絶

え聞かない。その問

が紹介される。世界基準に

り添ってきた玄侑の、行政

題を、若い僧侶の

地域自体の汚染線量が高い

照らしても汚染はかなり低

への怒りと失望が静かにた

恋物語に絡めて大

とされている上に、竹藪は

いはずなのに、安全と断言

ぎっている。ひたすら明る

波小波大

胆に描いたのが、玄侑宗久

放射線値が高い。危険だと

する勇気を自治体も医者も

く前向きな物語の、背後の

の新作『竹林精舎』(朝日

いう声の中、彼は住むこと

学者も持たない。結局は責

問は深い。(祇園精舎)

の新作『竹林精舎』(朝日

いう声の中、彼は住むこと

学者も持たない。結局は責

問は深い。(祇園精舎)